

企業参入による取組事例〔北海道夕張市〕

1. 地域農業の状況

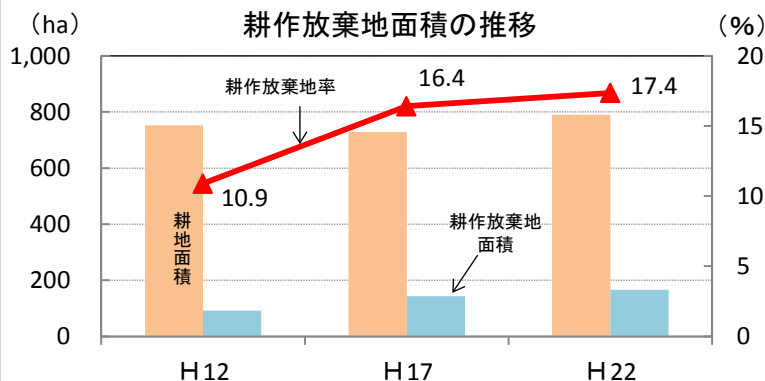
○ 夕張市は、北海道の中央部、空知管内の最南部に位置し、四方を山林に囲まれ夕張川が街の中央を流れ帯状に街を形成している。

明治24年の炭鉱開山以降炭鉱の街として栄えたが、昭和40年代に次々に閉山し、一時12万人の人口を数えたが、現在1万人弱となっている。



○ 農業は、明治23年の入植以降、豆、雑穀、野菜等を栽培してきた。昭和37年からメロンの栽培が行われ、昭和40年代には『夕張メロン』のブランドを確立。現在、9割がメロン農家となっている。最近では、薬用作物の栽培などにも力をいれている。

○ 市内の畑作地域において、高齢化・担い手不足などにより耕作放棄地が増加。



2. 耕作放棄地再生利用の取組

取組主体	耕土改良組合	地区名	沼ノ沢地区、沼ノ沢第2地区
再生面積	23.86ha (経営面積27.14ha)	取組年次	平成21年～平成25年
作付作物	薬用作物	販路	(株)夕張ツムラが自社流通

(1) 夕張市への企業参入の動機

○ 夕張市では、人口減少や市の財政問題などを解消するため、市への企業誘致を行っていた。

○ 一方、医薬品の製造販売を事業内容としている(株)ツムラは、漢方製剤などの事業を実施しているが、国内需要の85%を輸入(中国80%、その他5%)しており、輸入依存体質の改善や品質確保等のため、国内の栽培拠点を確保し、原料生薬の栽培拡大を図ろうとしていた。

(2) 企業参入による耕作放棄地の再生利用

○ 北海道は、夕張市の企業誘致とツムラの原料生薬の栽培拡大のニーズをマッチング。ツムラは平成21年7月に(株)夕張ツムラを設立し、自社農場での栽培を効率化。

○ メロン農家は4ha程の農地が限度であり、畑地の耕作放棄地の再生に苦慮していたが、(株)夕張ツムラの設立により、耕作放棄地の再生が図られ地域の新規作物の導入につながった。

○ 耕作放棄地の再生作業は、(株)夕張ツムラから委託を受けたメロン農家が耕土改良組合を設立し、農作業の空期間を利用して作業を行った。



活用した支援策

H22～25	鳥獣被害防止総合対策整備交付金(国)(電気柵の設置)
H24～26	農業生産資材安全使用等総合推進事業(国)(作物残留分析)
H21～25	耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国)(土壌改良、営農定着、施設等補完整備)